

世界に届けよう!~1分間のメッセージ~

第5回ユニセフ

One Minute Video

コンテスト

最終審査・表彰式

2016年8月19日(金)

主催：ユニセフ One Minute Video コンテスト実行委員会

後援：文部科学省

unicef 



One Minute Video とは

One Minute Video は、1 分間の映像制作を通して、厳しい状況におかれている子どもたちなど、世界中の子どもたちが自分たちのメッセージを世界へ向けて発信し、自己表現力を養い、国籍を越えて興味や意見、夢や希望を分かち合う活動です。

One Minute Video プロジェクトは、The European Foundation、The One Minute-Foundation、ユニセフ（国際児童基金）の協力で 2002 年にスタートしました。初めは、紛争などで自分の意見を自由に表現できない子どもたちに、自分の意見や夢を伝えるチャンスを与える目的で始まりました。今では、様々な背景をもつたくさんの子どもたちが、世界中からこの活動に参加しています。ユニセフは現在、アフリカやアジア、中東をはじめ多くの国々でワークショップを支援し、世界的にこのプロジェクトを広めるために活動しています。



プログラム

- 12:30 コンテスト受付開始
- 13:00 主催者挨拶
審査員の紹介、One Minute Video プロジェクトの紹介
- 13:10 入賞作品 No.1～10 上映・賞状授与
- 13:35 入賞作品 No.11～20 上映・賞状授与
- 14:00 入賞作品 No.21～30 上映・賞状授与
- 14:25 休憩（～14:35）
- 14:35 学生事務局による審査中特別イベント
- 15:00 表彰式
- 15:30 フォトセッション

14:35 ～ 審査中特別イベント「もう一つの One Minute Video コンテスト」

第5回 One Minute Video コンテスト入賞30作品を学生事務局で事前に5つのカテゴリーに分けさせていただき、そのカテゴリーごとに6枚の色紙を使って、観客の皆さんに新たな受賞作品を選んで頂きます！

審査員紹介

審査委員長 五嶋 正治 氏（東海大学教授）

審査員 尾木 直樹 氏（教育評論家 / 法政大学教職課程センター長・教授）

石川コロンえりか 氏（駐日ベネズエラ大使夫人 / ソプラノ歌手）

竹内 新也 氏（文部科学省 大臣官房付 シニアオフィサー（国際担当））

早水 研（（公財）日本ユニセフ協会 専務理事）

入賞作品紹介

タイトル

制作者

1	魔法の絵本	専門学校穴吹デザインカレッジ 5 班
2	ひとりぼっちの花	倉敷芸術科学大学 飴降り
3	みんなで共に進む世界	Centennial Secondary School 田村 鞠果
4	Don't leave me alone	デジタルハリウッド大学 中村 恭平
5	クレヨン	中央工科デザイン専門学校クレヨン' S
6	disaster- 災害 -	さいたま市立浦和中学校・A 組 2 班
7	I help you again and again	山口 静香
8	きれいな夜空	名城大学 経済学部 谷村ゼミ「えのぐ」
9	公園	広尾学園中学校・高等学校 The Peelers
10	大切な「今」	熊本デザイン専門学校 宮崎 直花
11	Send smiles to the future!!	茨城大学 えんぴち
12	Don't leave me behind	京都芸術高等学校 正田 杏樹
13	Notice SOS	埼玉県立芸術総合高等学校 大門 倫子
14	気づきの先に	熊本県立大学 飯村研究室 ムービー制作部「彩」
15	BE HAPPY	神戸学院大学 現代社会学部 OGASAWARA
16	輪になろう	関西大学 Media Creative Supporter 石田 菜奈子
17	世界中の子どもたちに平等な豊かさを	龍谷大学 山田 寿美香
18	世界の飽食と飢餓	東海大学付属静岡翔洋高等学校 白洲 颯
19	フルーツバスケット	東京都立国際高等学校 映像 B 2 班
20	勇気をください。	岡山県立岡山芳泉高等学校 美術部 山脇 僚太
21	描く未来	岐阜県立岐阜総合学園高等学校 マルチメディア部
22	Where are you?	東海大学 青木 啓一郎
23	道～共に歩く～	上田高等学校 2 年 7 組 DF 班
24	ALONE	駿河台大学 三吉 泰喜
25	誰一人として、おきざりにしない	清教学園高等学校 1 年 D 組 7 班
26	We Know	文教大学 戸谷 佳祐
27	We are not different	東海大学 文学部広報メディア学科 李 夢瑤
28	一緒に遊ぼう	日本工学院専門学校 放送・映画科 制作コース
29	自分たちができること	大島町立第一中学校 美術部
30	みんなが食べられる世界へ	専門学校穴吹デザインカレッジ Be

入賞作品 No.1~10

1

「魔法の絵本」

専門学校穴吹デザインカレッジ 5 班



この作品は世の中には文字を読むことの出来ない子どもたちがいて、更にその中でも女の子が多いことを知ったことから作ろうと考えました。仲間外れはダメ、そんな思いがこもった作品です。

2

「ひとりぼっちの花」

倉敷芸術科学大学 飴降り

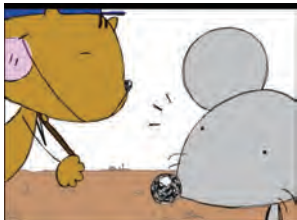


今回、この作品に込めた思いは、「見て見ぬ振りしないで」、「気が付いたら手をさしのべてあげる」の2つです。映像の前半、コントラストを少し暗くし、後半で明るくしているのは、悲しい感情、嬉しい感情を表現するために、主人公の心の中を表しています。また、作中に出てくるマリーゴールドの花言葉、「生命の輝き」と主人公の花を助ける行動をかけた内容になっています。

3

「みんなで共に進む世界」

Centennial Secondary School 田村 鞠果



本当の「だれも、置き去りにしない」というのはどういうことなのかを自分なりに考えました。食料や物資の供給も勿論、貧しい国の人々を支える大切な支援ですが、それではいつまで経っても「先進国が開発途上国を助ける」という関係性が変わらないのではないかと思います。開発途上国の子どもたちに先進国と同じような平等な教育の場を作ってあげることが、彼ら自ら国を発展していく力を身につける手助けになるのではないのでしょうか。

4

「Don't leave me alone」

デジタルハリウッド大学 中村 恭平



この作品を通して、私は自分の国際環境への配慮のなさを実感しました。UNICEF 募金を通してこんなにもたくさんの命が救われていることに大変驚き、その思いを映像にしようと奮い立ち、この作品が生まれました。今回こだわった点は映像の中に出てくる“ビー玉”です。実際に開発途上国に行って撮影をすることはできないので、簡単に割れたり傷つきやすいビー玉を使うことで、人の命を再現しました。

5

「クレヨン」

中央工科デザイン専門学校 クレヨン' S



今回の作品はストップモーションを利用しました。「誰も置き去りにしない」というテーマに沿って可愛らしく、そして小さい子どもにも伝わりやすい内容になるよう工夫しました。特に、クレヨンを生きているように再現することに力を入れました。クレヨンは全て手作りし、一体一体少しずつ動かし、表情をつけることで感情を表現して1分間に収めました。

6

「disaster 一災害一」

さいたま市立浦和中学校 A組2 班

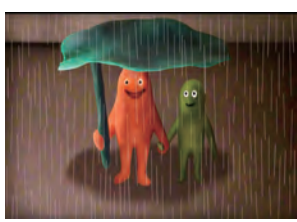


一枚一枚少しずつフィギュアを動かしながら、撮影を進めていきました。とても地道で完成がなかなか見えてきませんでしたが、みんなで協力して完成することができました。フィギュアの顔を変えずにフィギュアの心情を表現できるように工夫しました。

7

「I help you again and again」

山口 静香



今年からクレイアニメに挑戦しています。よりレベルアップしたいと思い公募しました。私は主婦ですが子どもはいません。話し相手もいなくてだんだん気持ちが沈んでいき心を閉ざしてしまいました。こんなときに「大丈夫だよ」と手をさしのべてくれる人がいたら…最初は遠慮してしまうかもしれないけど心の中であらう一度声をかけてくれるのを待っている。そんな思いを粘土にこめました。最後には気持ちも晴れるように作りました。

8

「きれいな夜空」

名城大学 経済学部 谷村ゼミ「えのぐ」



きれいな水が、いつのまにか濁った水に。さあ、どう片づけようか?でも、待って!この水でなければできないこともあるよ!

9

「公園」

広尾学園中学校・高等学校 The Peelers



「だれも、置き去りにしない。」このテーマに沿って、置いていかれてしまった子どもに焦点を当てた作品を仕上げました。子どもにも目を惹きつけるために子どもにピントを合わせ、他の登場人物の顔をあまり重点的に写しませんでした。この作品は、どこの国のどんな人が見たとしても伝わるように、私たちの率直な気持ちが込められています。

10

「大切な「今」」

熊本デザイン専門学校 宮崎 直花



熊本地震で被災し、家が危険な状態になったので避難所生活をしていました。被災しなかった子達は当たり前の日常を送り成長し続けているのに、私は地震に日常を奪われ、同じように時間を送れないことに焦燥感を感じていました。避難所に居た同年代の子達と話してみると皆同じような思いを抱いており、被害はライフラインだけじゃない。大切な「今」という時間も奪われてしまうという事を体感し、あの時の思いを動画にしました。

入賞作品 No.11~20

11

「Send smiles to the future!!」

茨城大学 えんぴち



勉強できる環境に恵まれている私たちはペンを一本捨てても何も思わないかもしれない。しかし、発展途上国ではえんぴつさえ手に入らず勉強できない子どもたちがたくさんいる。それで、私たちは自分たちの家の中で眠っている文房具を送ればそのまずしい子どもたちに学習機会を与えてより明るい未来をもたらすことができるのではないかと考え、このCMを作った。

12

「Don't leave me behind」

京都芸術高等学校 正田 杏樹



テーマを少し改変したキャッチコピーに決めました。いまや多くの国の人々が救われているといえども、それでもまだ手の届いていないところがあるということで、こういった表現にしました。

13

「Notice SOS」

埼玉県立芸術総合高等学校 大門 倫子



「助けてほしいれば声に出さない。」私は小さい頃からそう言われて育ちました。しかし、声に出していても助けに気づいてもらっている人はどれだけいるのでしょうか。世界には助けを求めている人が沢山いるはずです。まずは私たちがその「助け」に気づき、問題を共有しよう、そんな思いで作品を作りました。何かを抱えている人を置き去りにせずに、皆が笑顔になれる世界になることを私は願っています。

14

「気づきの先に」

熊本県立大学 飯村研究室 ムービー制作部「彩」



これまで世界中の人々の生活に関する課題が解決されてきました。一方で、未だに課題を抱えている人々もいます。それなのに、私たちは前者だけに目を向けてしまいがちです。このことから「気づかない」ことが「置き去り」を生むのだと考えました。小さな「気づき」が次の誰かが「気づく」きっかけになり、これが連鎖することできっと何かのアクションに繋がります。そこでまずは「気づく」ことが第一歩だと考え、制作に至りました。

15

「BE HAPPY」

神戸学院大学 現代社会学部 OGASAWARA



最近日本に住む外国人の数は増えています。そこで、問題となるのが言語問題です。言語問題は、私たちの思いやりさえあれば越えられる壁だということを動画にしました。

16

「輪になろう」

関西大学 Media Creative Supporter 石田 菜奈子

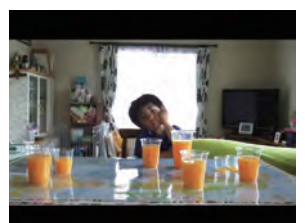


「誰も置き去りにしない」というタイトルを、世界中の子どもたちに伝えられるよう、ビーズで表現してみました。ビーズで表現するということで、ストーリーは単純なものにしました。コマ撮りは大変でした。

17

「世界中の子どもたちに平等な豊かさを」

龍谷大学 山田 寿美香



この作品を作るにあたって、「誰も置き去りにしない」のテーマをもとに世界の子どもの貧困に目を向けました。世界の貧困の格差はまだなくなりません。日本の子どもたちから格差をなくす活動がひろがるように、誰も置き去りにせず、みんなで成長できるようにと思いを込めました。

18

「世界の飽食と飢餓」

東海大学付属静岡翔洋高等学校 白洲 颯



世界には食べ物が足りないわけではないことを知りました。みんなが協力すれば救える命があるのを伝えたいです。食べ物を運んでいるところが見所です。

19

「フルーツバスケット」

東京都立国際高等学校 映像 B 2 班

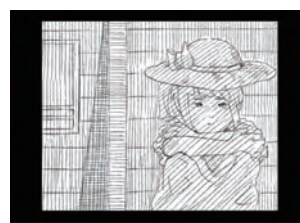


全ての人が、それぞれ違うこと。そしてそれがどんなものかとしても決して悪いことではなく、認め合うべきであるというメッセージがこの動画には込められています。このような大きなテーマだからこそ、私たちに身近なフルーツバスケットというゲームを通して表現しました。

20

「勇気をください。」

岡山県立岡山芳泉高等学校 美術部 山脇 僚太



誰にでも勇気があるわけではない。この作品はそんな人たちに焦点をあてたものです。

入賞作品 No.21～30

21

「描く未来」

岐阜県立岐阜総合学園高等学校 マルチメディア部

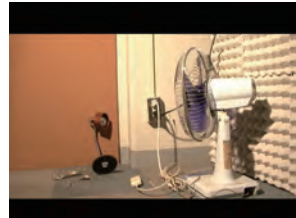


世界の先進国と発展途上国の子どもたちの間には様々な格差があります。与えられるものによって、子どもたちの将来までも差が生まれてしまったら、少ししか与えてもらえない子どもはさらに置き去りにされていってしまいます。そういった置き去りを、どうしたら無くすることができるのかを考えてほしいというメッセージを込めて作品を制作しました。

22

「Where are you?」

東海大学 青木 啓一郎

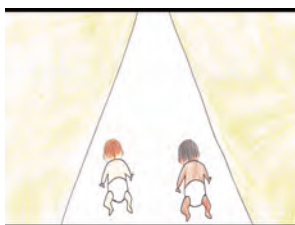


誰も置き去りにしない＝居場所を見つけることと自分の中で考えて撮影しました。出てくる電化製品がいかにも人間らしく見える動きをするか頑張って工夫しました。見る人によって色々な受け取り方をするかもしれないです。

23

「道 ～共に歩く～」

上田高等学校 2年7組 DF 班



生まれた時は、誰もが皆平等です。しかし、なぜ彼らの生きる道はこれほどまでに違うのでしょうか。もしも、あなたが手をさしのべることができるのなら・・・自分たちの未来が共に寄り添って歩くことができますように。

24

「ALONE」

駿河台大学 三吉 泰喜



人の表情がわかりやすく、見ていて気持ちが伝わるのでは、と考え、全て絵を描いて表現してみました。

25

「誰一人として、おきざりにしない」

清教学園高等学校 1年D組 7班



見た人の心に残るような作品にしました。

26

「We Know」

文教大学 戸谷 佳祐



生きていくために多くのものを生産・消費し、そして無駄にしている私たちが、これからすべき行動についてピクトグラムを用いたアニメーションで表現しました。

27

「We are not different」

東海大学 文学部広報メディア学科 李 夢瑤



今回のテーマを考え、私は世界の人種の違う子どもたちを違う色の卵で表現しました。「肌の色が違って、中身は同じだ。」というメッセージを伝えたいです。けんかや戦争じゃなくて、お互い理解することが大事です。

28

「一緒に遊ぼう」

日本工学院専門学校 放送・映画科 制作コース



どんどん広がっていく友達の輪を描きました。暗い雰囲気から少しずつひらけていき、最後は明るく締めます！

29

「自分たちができること」

大島町立第一中学校 美術部



この動画は Excel のセルを塗りつぶしてドットでつくりました。部員みんなが苦労して一枚一枚作ったデータを画像に加工し、PowerPoint で動画に変換しました。この動画では私たち先進国の行動で地球全体に影響を与えているということを伝えています。5年前大地震の時に頑張っていた節電も、忘れられてしまったように感じます。世界中には環境破壊の中に置き去りにされている人々が大勢います。責任は先進国の私たちにあります。大きなことでも私たちにすべきことがあるはずなんです。

30

「みんなが食べられる世界へ」

専門学校穴吹デザインカレッジ Be



世界には、食べ物が食べられなくて困っている子どもたちがたくさんいます。そんな子どもたちが食べられるような世界になるように、気付いた人が一歩踏み出せるようなそんな思いを込めた作品です。